

今週の為替相場見通し(2021年3月29日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		108.41 ~ 109.84	109.68	108.50 ~ 111.00
ユーロ	(ドル)		1.1762 ~ 1.1947	1.1794	1.1650 ~ 1.1900
(1ユーロ=)	(円)		128.30 ~ 129.93	129.36	128.00 ~ 130.50
英ポンド	(ドル)		1.3671 ~ 1.3877	1.3799	1.3670 ~ 1.3870
(1英ポンド=)	(円)	*	148.53 ~ 151.55	151.28	150.00 ~ 152.00
豪ドル	(ドル)		0.7564 ~ 0.7755	0.7642	0.7500 ~ 0.7700
(1豪ドル=)	(円)	*	82.29 ~ 84.38	83.79	82.00 ~ 84.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 鈴木 智大

(1)今週の予想レンジ: 108.50 ~ 111.00 円

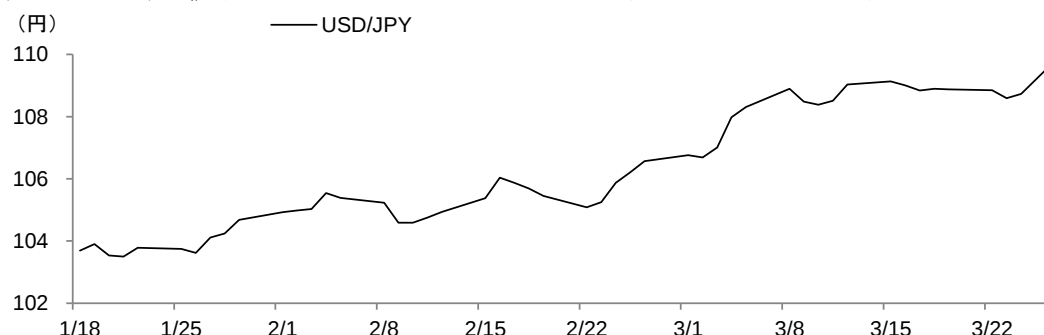
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円は、前半やや弱含んだが、後半にかけて値を上げる展開。週初22日はトルコ中銀総裁が電撃解任されたことを受けた全面円高により、アジア時間のオープン直後に108.50円をつけるがすぐに値を戻し、東京時間は108.88円でオープン。米とEUが共同で中国の個人、団体を制裁対象に加えたこと等は特段材料視されず、動意の薄い展開となった。23日は日系企業のレパトリを主導とした売りフローにややドル売りが優勢となり、一時108.41円まで下落。海外時間は米金利が持ち直したことにより108円台後半を回復するとその後は動意を欠き、108円台半ばでの推移。24日は欧州での新型コロナウイルス感染拡大を受けた、対ドルでの欧州通貨売りにもサポートされ、一時108.95円まで上昇。その後は米金利が低下する動きにやや値を下げたが、108円台後半を維持してクローズ。25日は早朝に北朝鮮がミサイルを発射したとのヘッドラインが伝わるも、反応は限定的。月末、年度末に向けた実需のドル買いにより底堅い推移を見せ109円台に突入。米国時間の7年債入札の結果を受けた米金利の上昇を受け、一時109.23円まで上昇し、109円台前半でクローズ。26日は米金利の上昇によるドル買い、株式市場の堅調推移を背景とした広範な円売りが重なり、一時109.84円をつける。その後は週末を控える中、109円台後半の高値圏での推移が続き、109.68円で越週した。

今週のドル/円は109円台を中心に底堅い推移を予想。先週のパウエルFRB議長の会見では、これまでのスタンスが大きく変わることはなかった上、足許の米金利の上昇に対する言及もなかった。これを受けて米金利は依然として高水準を維持しており、ドル買い優勢の状況は継続し、下値は限定的になると思われる。また欧州各国のロックダウン措置や、ワクチン使用の停止を背景に欧州通貨は軟調推移が予想され、対ドルでの欧州通貨売りもドル高基調のサポート材料になるのではないかと。米金利の動向に左右される展開は依然として続くと思われるが、年度末を迎える中、本邦企業の売り需要は一服しているような雰囲気があり、週末はイースターにより欧米各国が休日となることから、週前半は更なる上値を試す展開となり、後半は高値圏での比較的狭いレンジ内での推移になると予想する。今週の主な経済指標として、30(火)に3月コンファレンスボード消費者信頼感指数、1日(木)に新規失業保険申請件数、3月製造業PMI確報、3月ISM製造業景況指数、2日(金)に3月雇用統計の発表が予定されている。

(3)先週末までの相場の推移

先週(3/22~3/26)の値動き: 安値 108.41 円 高値 109.84 円 終値 109.68 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第一チーム 逸見 久貴

(1) 今週の予想レンジ: 1.1650 ~ 1.1900 128.00 ~ 130.50 円

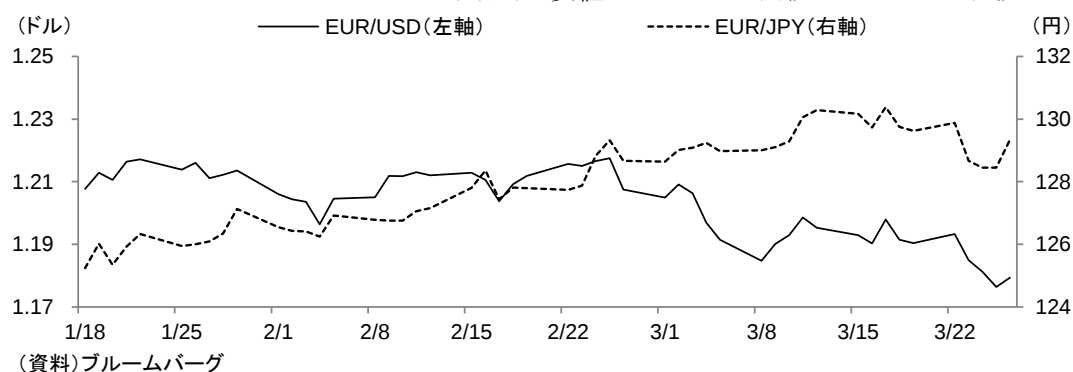
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロは下落。週初、1.188付近でオープンしたユーロドルは、直近のPEPPの債券購入額が大きく拡大していることが明らかになったものの、米金利が低下すると、ユーロ買い優勢の展開。週高値1.1947をつけた。翌23日は、パウエル議長の発言が意識され、ドル買い地合いに。米株式市場が軟調に推移すると、ユーロ/円の売りも重しとなり、ユーロ/ドルは、1.18 台半ばまで軟調に推移。週央24日は、ドイツのロックダウン延長が嫌気されたことや新型コロナウイルスの感染拡大を受け、ユーロ売りが継続し1.18台前半まで下落した。翌25日、欧州でのコロナ感染者数の増加を受け、上値の重い展開。東京時間こそ1.18台を維持したものの、ニューヨーク時間の序盤に1.18台を割り込むと、米金利上昇によるドル買いも相俟って、週安値1.1762をつけた。週末26日、独3月IFOが市場予想を上回り、また、米金利が下押しされると、1.18台を回復する場面も見られたが、新規材料に乏しく1.1790付近での方向感の無い推移となり、1.1794で越週した。

今週のユーロは軟調な推移を想定。今月のFOMCにて、米金利の上昇を容認する姿勢が再確認されており、欧米間の金利差拡大によるユーロへの下押し圧力は継続。また、欧州ではコロナ感染者が増加し、ドイツはイースター休暇中もロックダウンを継続することが決定される等、感染拡大による経済活動の停滞が懸念される中、ユーロを買い進め難い状況。加えて、バイデン大統領が先月の1.9兆ドルに続く経済対策を31日(水)に発表する見込みであることや、ワクチン接種が順調に進行していることもあり、米経済の先行きに対する期待感の高まりから、ドル買い地合いとなり易く、ユーロ/ドルは軟調な展開を想定している。その他、30日(火)ユーロ圏3月消費者信頼感指数、1日(木)ユーロ圏3月CPI(速報)、ユーロ圏3月製造業PMIの発表を予定している。

(3) 先週までの相場の推移

先週(3/22~3/26)の値動き: (対ドル) 安値 1.1762 高値 1.1947 終値 1.1794
(対円) 安値 128.30 高値 129.93 終値 129.36



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.3670 ~ 1.3870 150.00 ~ 152.00 円

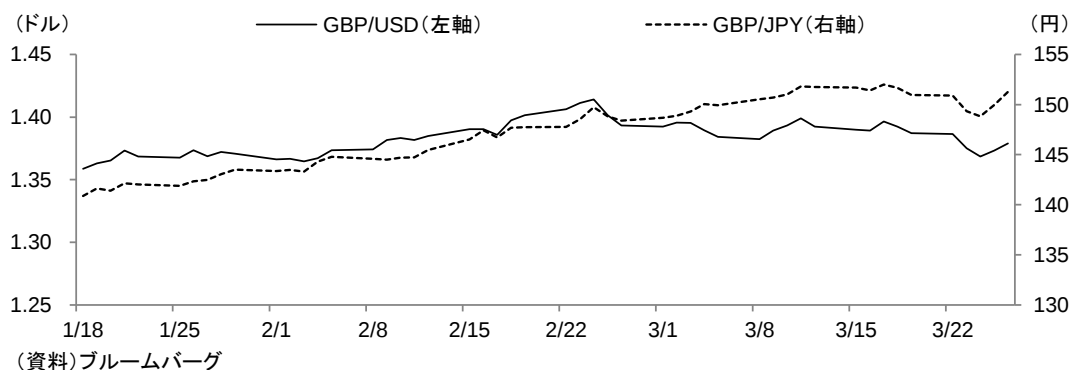
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、下押し先行後、対ドルでは小幅安、対円、対ユーロでは小幅高で週の取引を終えた。主要通貨市場の方向感を振り返れば、この間も、ドル高地合が支配的と言えた。ただ、2月末以降のドル全面高を支えてきた米長期金利上昇は、この間一服、ドルを押し上げたのは景況感格差と思われた。23日、24日の米連銀パウエル議長の議会証言が、米景気回復に強気と受け止められたのと対照的に、欧州では、独、仏などを中心に、コロナ禍第3波拡大と経済/行動制限措置強化への懸念が広がった。この視点で、週後半にかけてポンドが反発した背景に、英におけるワクチン接種の進捗に対する好感があった可能性も考えられたのではないかと。円相場は、週前半、堅調気味に滑り出したものの、週後半にかけては明確に下落。週明け直後の円堅調の一因には、トルコ・リラに対する円の買戻しが観測された。週末(22日)の突然のトルコ中銀総裁更迭を受け、本邦個人投資家の高金利通貨投資と思われるリラ/円の買い持ちポジションの解消(売り戻し)が、リラ流動性に乏しいアジア時間の為替市場で、広範に進んだものと考えられた。こうした材料が交錯した結果、主要通貨市場の地合は、週前半の円≧ドル>ユーロ≧ポンドという序列から、ポンド>ドル≧ユーロ>円という具合に変遷したわけだが、見方を変えれば、結局、ドル堅調以外に、定まった方向感のない1週間だったと言えたのではないかと。

今週の英ポンド相場は、方向感に乏しい膠着から、値幅が出るなら軟調を予想。欧米主要市場では、復活祭の連休を前に動意の低下が見込まれる。年明け以降の主要通貨相場の動向を見ると、ドルとポンドが勝ち組、円とユーロが負け組と色分けできるように思われる。両者を分かつ要因を考えると、新型コロナワクチン接種の進捗の差を挙げないわけにはいかないだろう。長期金利格差という要因も、突き詰めて言えば、ワクチン接種の進捗状況に付随する、経済活動再開に対する期待感の違いと位置付けるのが妥当と思われる。ポンド膠着を見込むのは、仮にこの見方が正しいのだとしたら、そこまで決定的な要因とは思えないし、結局は時差の問題に過ぎず、長続きするとも思えないからだ。まず、ワクチン接種による先行き景況感の改善が、そこまで重要な判断材料であったのなら、先週、24日に発表された英2月CPIの明確な下振れや、26日の英2月小売売上高(除く自動車燃料)の明確な上振れに対するポンドの反応の鈍さが腑に落ちない。経済活動の再開時期に、半年から1年前後の時差が生じるなら、その分、内需の復活時期に差は出るだろうし、それが現在、米英の優位を形成する要因と受け止められているのは確かであろう。ただ、仮に英国一国が安全になったからと言って、例えば英とEUの間の人(観光客)の移動が自由になるわけではない。一方で、国境をまたいだ物の移動が、現在、著しい制限を受けているかという点、通商の停滞は、そもそも、コロナ禍による需要低迷が主因で、需要があるところ、スペイン産の苺も、イタリア産のトマトも、なんの支障もなくロンドン市内で購入できる。英国内の需要が回復すれば、潤うのは英の生産者だけではないはずだ。また、コロナ禍の影響で資金の流れに支障が生じたなどという話も聞かない。従って、コロナ禍からの復活が、英国内の投資家の活動だけを殊更活発にすることもないはずだ。資金の流れという意味では、株式売買が英シティから大陸市場に流失した、金融規制の同等性評価に関する英EU間の交渉に進捗が見られないなど、英のEU離脱の悪影響に関する報の方が、現時点では目立つようにすら思われる。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(3/22~3/26)の値動き: (対ドル) 安値 1.3671 高値 1.3877 終値 1.3799
(対円) 安値 148.53 高値 151.55 終値 151.28



4. 豪ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 尾身 友花

(1) 今週の予想レンジ: 0.7500 ~ 0.7700 82.00 ~ 84.00 円

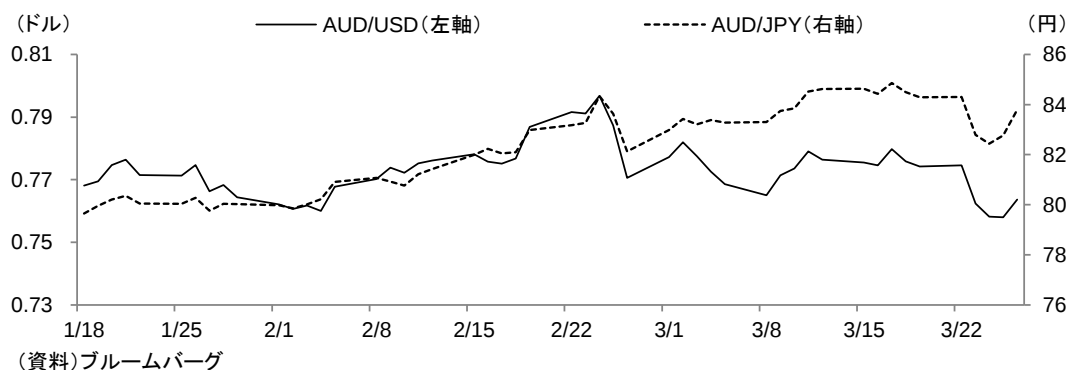
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドルは下落。月曜朝は先週末の「トルコのエルドアン大統領が中銀総裁を解任」との報道を受け急激なドル売り、リスク回避のドル買いでスタート。豪ドルはオセアニア月曜の薄い流動性の中で、0.76台へ一旦ディップしたものの、リスクセンチメントが落ち着きを取り戻すにつれ上昇し、一日を通して0.77半ばまで戻した。AUD/JPYは83.60円スタートから84.40円近辺まで戻した。火曜朝、NZ政府が住宅価格高騰阻止の為に税制優遇措置の撤廃を発表(効果的にネガティブギアリングを出来なくする)。これを受けて利下げ圧力が低下し、低金利が長期化するとの見方が広がり大きくNZD売り。AUD/NZDは1.0810近辺でスタート後、NY入りにかけては昨年9月以来の高値1.0938を記録。豪ドルは0.77半ばでスタート後、ファンド勢がNZD/USDのショートを積み増す動きに連れ安となり、海外時間では株が大幅安となった事も手伝い0.7620近辺まで下落。NY原油先物やブレント先物も大きく下げ、本日早朝米10年債利回りは1.62%を一旦割る水準まで低下した。この他、オランダで生産された英アストラゼネカ製ワクチンについて欧州当局が不足しているワクチンをEU域内に確保する為、英国への輸出を禁止する可能性を示唆し、供給を巡る英vs欧州の対立が高まっている事がリスクオフ材料となった。イエレン米財務長官とパウエルFRB議長の下院議会証言では事前原稿に出ていた通り、回復には程遠いとの認識を繰り返すにとどまり、市場の反応は限定的となった。水曜日の豪ドルは0.76台を割る展開にやや押し目買いも見られ0.76ちょうどを挟んでの振幅した後、下値を探る展開となった。欧州で新型コロナウイルス感染が再拡大している事や、アストラゼネカワクチン供給における英国と欧州の対立もあり、株価は世界同時株安となり、恐怖指数(VIX)が上昇、リスク警戒感から米債利回りは低下した。また原油に関してはエジプトのスエズ運河での大型船座礁を受けて供給混乱への警戒感が強まり原油が急上昇した。また、NY時間に行われたパウエルFRB議長の上院議会証言で「インフレの上昇が一時的にとどまる」との見方を示し、「現状の利回り上昇は秩序だった動きである」と述べた。木曜日の豪ドルは0.75台後半を中心にタイトレンジで振幅。2月2日に付けた0.7564の年初来安値を1pipだけ更新し、0.7563まで下落。下値は徐々に切り下がっているものの、方向感の出ない展開となった。金曜日の豪ドルは反発した。市場ではドル買いが優勢となったが、豪ドルは上昇した。対ドルで0.76台半ば付近、対円で83円台後半まで値を戻してクローズした。

今週の豪ドル相場は引き続き軟調な推移を予想。先週は、高水準の米長期金利を背景に豪ドルは対ドルを中心に一段と下落した。高止まりする米長期金利が下押しする場面においても、株式市場や原油の下落などによるリスクオフのドル買いから豪ドルの下落は継続し、米金利の高止まりによるドル高とリスクオフのドル買いが豪ドルの下落基調をサポートした。今週も引き続きこの流れが継続すると考えており基本的には豪ドル安が一段と進行すると考えている。リスクとしては、米長期金利が下落することによりドル売りが優勢となる可能性を指摘したい。本邦では今週木曜日から新年度となり、本邦勢による新規の米国債券買いが米長期金利を下押しするか注目している。また、低金利の長期化を見据えたNZD売りに豪ドルが連れ安となっておりこちらも豪ドルの下押し要因となるだろう。経済指標は、1日(木)に豪2月貿易収支、豪2月小売売上高の発表が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(3/22~3/26)の値動き: (対ドル) 安値 0.7564 高値 0.7755 終値 0.7642
(対円) 安値 82.29 高値 84.38 終値 83.79



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。